

# 心をよつめる

その十一



北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

昔話の「おむすびころりん」は、皆様ご存知の事でしょう。

おじいさんが、山に芝刈りに出かけ昼にうっかりおむすびを転がしてしまい穴に落としてしまいました。すると穴から可愛らしい歌声が聞こえてきたので、もう一つおむすびを穴に転がしました。すると、また歌声が聞こえ夢中になっていくと、おじいさんまで穴の中に転がり落ち、落ちた所はネズミのお屋敷でした。ネズミたちは、歌いながら餅つき踊りを始めました。おじいさんは、御馳走・歌・踊りを楽しみ帰りには、お土産に宝物をもらいました。この話を聞いた隣の欲張りおじいさんは、おむすびを持って山に出かけ穴に無理やりおむすびを入れ、自分から穴に入って行きました。ネズミのお屋敷に着いた欲張りおじいさんは、お屋敷に有る宝物を全部欲しくなり強奪しようと猫の鳴きまねをしました。す

## 浄土にするか地獄にするか

とネズミたちは驚き明かりを消して一斉に逃げていきました。欲張りおじいさんの周りは真っ暗になり穴から出られなくなっていました。というお話です。

ネズミたちの住む地下世界は、歌って踊って美味しい物を食べ宝物がある浄土と言えます。しかし、強欲な心・自分勝手な心で接すると、浄土は一転し、暗黒の闇の世界・地獄に変化するのです。ネズミは「根住み」「根の国の住人」と解釈できます。日本神話では、「根の国」は死者が住む他界を意味します。亡くなった方々に食べ物や施し正しい心・慈悲の深い者には宝物をあたえ、地上に帰してくれ、欲張りで自分勝手な者は闇の世界・地獄に残されるのです。



日蓮宗 妙貴寺 住職  
原 良覚上人

「日蓮宗霊断法によるお悩み相談を行なっています。荒行五行成満の各種御祈禱もいたします。お気軽にご連絡ください。」



日蓮宗 妙貴寺  
北九州市八幡東区枝光 5-6-5  
TEL 093-681-4684

日蓮大聖人のお言葉に

「浄土というも地獄というも外には候わず。ただ我が胸の間にあり。これを悟るを仏という。これに迷うを凡夫という。これを悟るは法華経なり。もし、しからは法華経を持ち奉るものは、地獄即寂光と悟り候」とあり、この世を浄土にも地獄にするのも自分次第、正しい慈悲深い心を養う事が大切なのです。

さて、新型コロナウイルスの関連で、ある五十代の男性のニュースを記憶している事と思います。その男性は、新型コロナウイルス感染が確認され、自宅待機を要請されたにもかかわらず、「今からコロナウイルスをばらまいてくる」と言っ外出したのです。しかも、マスク無しでパブに行き至近距離で接客を受け

会話をしたりし、お店や店の従業員に大変迷惑をかけたのです。その男性はお亡くなりになりましたが、家族は、おそらく男性を素直に弔う心になれず複雑な心もちて見送られた事でしょう。又、風評被害等にも苦しめられておられる事でしょう。まさに地獄です。新型コロナウイルス禍でも、楽しみを見出し、浄土に変えるようつとめる事が大切です。

## 妙貴寺のお宝



「喝」 吉川 権作

持国天（四天王のうち、東方の守護神）  
菩提寺である妙貴寺に寄贈されました。